

第9回 全国雑木林会議神戸大会

はじめに

もともと雑木林は、薪や落ち葉を採集したり、炭の原料を得たりするために、人が関って維持されてきた林でした。しかし、その後の文明の発達に伴い、化学肥料が登場し、石油エネルギーが使われ、さらにはライフスタイルも変化し、現在では人との関わりがなくなってきて放置され、姿が変わってきているのが現状です。また、この雑木林との関わりには、生活の知恵や技術といった“文化”も大きな要素として含まれていました。

このような状況のもと、生態的な視点による雑木林の重要性の認識や、市民活動のなかでの保全などが行われるようになってきました。

全国雑木林会議は、このような流れの中で、雑木林に関わる市民活動の情報交換の場として、市民レベルで発足した年一回開催される全国大会です。2000年は山口県で第8回大会が開催され、2001年は神戸市で第9回大会が開催されました。

2001年9月22日から24日の3日間の日程で、「全国雑木林会議」が神戸で開催されました。

私は実行委員として、開催約1年前の平成12年9月の実行委員会から参加させていただきました。

参加のきっかけは、事務局長の秦さんと以前一緒にお仕事をしたことや、様々なシンポジウムで一緒したことのある方々が事務局のメンバーに多かったこともありますが、私自身東京にいた時代には「雑木林」、大阪に来てからは「里山」というキーワードと離れることなく仕事をしてきており、他の方々はこれらの言葉に対してどんな思い入れが

あるのか興味を持ったことも大きな要因であると思います。(もちろん、単に私がお祭り好きというのもありますが。)

では、雑木林会議が開催された3日間を順に紹介したいと思います。

1日目

ひょうごの里山の見学会

1日目。この日は、3コースに分かれてのエクスカージョンでした。

このうちの2つはバスに乗って見学するコースでした。台場クヌギで有名な「北摂の里山を見学するコース」と、実際に市民活動を行ってい

る「フィールドを見学するコース」の2種類に分かれました。バスを借りたことから、それぞれ50名程度の定員で募集しましたが、どちらも満席という盛況ぶりでした。

もう1コースでは、新神戸駅から徒歩で山を登り、六甲山の再度公園周辺を目指しました。このコースも20名ほどの参加者があり、意気揚々と山へ向かいました。

2日目

全体会議・分科会

2日目。神戸市北区の「しあわせの村」の会場が舞台になりました。



写真1 全国雑木林会議神戸大会 全体会議



写真2 分科会 - ワークショップ